

# 「森銑三刈谷の会」だより No. 24

発行 2023/10/21 (月刊・メールでの投稿歓迎)  
例会 第3土曜日 14:00-16:00 市中央図書館 参加自由

バックナンバー 刈谷市中央図書館>森銑三刈谷の会  
共同代表 神谷磨利子・鈴木 哲 tetsu\_s@katch.ne.jp

表 村上文庫整理における亀城尋常高等小学校高等科1年児童  
たちの手伝い(1916年6月~7月の例) 『日誌』からの抜粋

月・日	曜日	天気	児童数	作業内容
6月24日	土	晴	数名	レッテル貼付
30日	金	晴	数名	手伝い
7月8日	土	晴	2名	ペーパー貼付
9日	日	晴	6名	書庫へ移す
13日	木	曇	4名	ペーパー貼付・書籍入庫・カード分類
14日	金	晴	4名	ペーパー貼付・その他
15日	土	晴	3名	ペーパー貼付・図書入庫
16日	日	晴	2名	手伝い
18日	火	晴	5名	数調査・レッテル貼付
19日	水	晴	9名	書数調査他
20日	木	晴	6名	冊数調査
24日	月	晴	8名	ペーパー貼付・入庫
25日	火	晴	13名	薄謝(13日~24日分)を渡す。前日に竹田司書に報告済み。
27日	木	雨	3名	手伝い
28日	金	曇	5名	ペーパー貼付
29日	土	曇	1名	手伝い
30日	日	晴、曇	2名	手伝い
31日	月	晴	3名	手伝い

「レッテル」「ペーパー」とあるのはどちらも「ラベル」のこと。

## 第24回(2023/9/16) 山田宇多子さん「町立刈谷図書館時代の森銑三と子どもたち」参加11人(神谷)

森銑三が町立刈谷図書館に勤務した1916年[大正5]6月~18年3月(銑三満20歳~22歳)の様子については、  
本会第4回の勉強会(2021年12月18日)で、刈谷市中央図書館・村瀬典章氏に「森銑三による村上文庫の整理」というお話を聞かせていただいた。その際に「森銑三の村上文庫整理方法」について図書館の『日誌』からの抜粋による説明がなされた。『日誌』は銑三が仕事の進捗状況を日々記録したものである。1916年6月17日から(銑三の筆記は19日分の途中から)翌17年6月30日まで宍戸俊治・藤井清七両氏の元から村上文庫書籍の受け入れ、冊数の点検、ラベルの貼付・記入、カードの作成、一覧表の作成、目録の作成、台帳の記入に至る作業の経過を追うことができる。7月3日の開館式を前に6月30日に大掃除をしたところまでの記録が残されている。

今回は高木浩明氏が翻刻された『森銑三刈谷日記』上・下(2018・19年)を読んだ山田宇多子さんが、銑三の仕事を手伝った亀城尋常高等小学校高等科1年の児童たちに焦点を当てて話をしてくださった。

宇多子さんはまず、『日記』を通して読んだ感想を、「小説のようにストーリーがあるわけでもなく、始めは何が見えてくるか分からなかったが、内容をカレンダーに書き込んでいくと、銑三さんの働き方、村上文庫の書籍が運び込まれる様子等が分かり、高等科1年の子どもたちの手伝いの力の大きさが見えて来て、次第に楽しくなった」と話された。次に子どもたちが自分の都合を考え、それぞれが自分で行動しているようにみえるという

指摘があった。また、書物の内容を見て分類し、ラベルに記入し、カードを作成するのは銑三さんの仕事であるが、受け入れた書物を書庫に運んだり、ラベルを貼付したり、時には破本のとじ直しをしたりと、子どもたちの手伝いが無かったら、開館準備開始から1年後に開館式実施ということは難しかったのではないかという感想には大いに納得した。高等科1年の児童の中に弟の森次郎が含まれていて、次郎が最も多く銑三を手伝っていたことも手伝い時間の集計結果から分かったそうだ。

1918年4月から銑三が亀城尋常高等小学校の代用教員をした時受け持った児童たちは4学年下で、まだ尋常3年であったこと、手伝った児童の中には正木町に住んでいた人の名前があること、村上文庫書庫に使っていた土蔵のことなど、参加者から話題は尽きなかった。

山田宇多子さんの今回の発表内容は、森三郎の作品を読む会誌『かさざぎ』第6号(2024年2月発行予定)に掲載される。また、神谷磨利子は『かりや』42号(2021年)に「大正五年八月名古屋国技館のお伽講演——『森銑三刈谷日記』を通して——」を発表した。

### 発表を終えて

山田宇多子

発表のあとの皆さんの話がとても興味深かったです。刈谷ならではの発見に繋がり、この場所で続けることの大切さを思いました。会のあとで、展示室に土蔵造りの村上文庫書庫の写真が新しく掲示されていることに気づき、タイミングの良さも嬉しかったです。実物に会えたり疑問が解けたり、これも「森銑三刈谷の会」に参加しているこそ楽しさだと思いました。

### 宇多子さんの発表を聞いて

河橋育実

手伝いに来た児童たちへの謝礼の内容に興味を持ちました。初めは手伝いの時間により「雑記帳」「鉛筆」となっていましたが、「雑記帳」とはどんな体裁の物だったのか、値段はどうだったのだろうか、興味が広がりました。それにしても、淡々と書かれている日誌から銑三さんの勤務時間や子どもたちの手伝いの時間と内容をよく分かるように抜き取り解説して下さった宇多子さんに感謝です♪ その後で神谷さんの「名古屋国技館のお伽講演」の話を読んだので、手伝いに来ていた久米光男君のこともよく分かりました。

改めて図書館2階の村上文庫の常設展示を見ると、『日誌』や土蔵(写真)が身近な視点で見られました。

### 予定

25:2023/10/21(土) 神谷磨利子『赤い鳥』の森銑三作品  
26:2023/11/18(土) 鈴木哲「森銑三と江戸風俗研究家・杉浦日向子(1958-2005)」